

成果指標				
成果指標	決算額÷予算額			
指標設定の考え方	要望事業量に対する実施事業量の割合を上げることが、生産性向上及び環境整備を図れることになる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	0	100	0	0
実績	0	93.2	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	この事業は、当初25か所で計画していたが、1か所取り止めになったため、24か所の補助となった、そのため実績が93.2%になった。また、申請日が11月以降の件数が多いため、早期現地確認を行い早期着工する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	実績が100%にならなかったことから、要望に対して早期に現地確認を行い地元関係者へ補助申請を促し、早期発注により要望箇所を計画通りに施工する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題